

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 62173CT-697	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2005/005962	国際出願日 (日.月.年) 29. 03. 2005	優先日 (日.月.年) 31. 03. 2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. D04B15/06 (2006.01), D04B15/90 (2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社島精機製作所		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。06.3.29

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. ☒ 附属書類は全部で 5 ページである。

☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）

☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第802号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎

☐ 第II欄 優先権

☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如

☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

☐ 第VI欄 ある種の引用文献

☐ 第VII欄 国際出願の不備

☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 24. 10. 2005	国際予備審査報告を作成した日 15. 03. 2006	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 西山 真二 電話番号 03-3581-1101 内線 3320	3 B 9536

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2005年4月)

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1, 4-10 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 2, 3, 11, 11/1 _____ ページ*, 24.10.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*, PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 1, 2 _____ 項*, 24.10.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1-7 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 3, 4 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1, 2	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 1	有
	請求の範囲 2	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1, 2	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1 : JP 2646317 B2(ハー・シュトル・ゲゼルシャフト・ミット・ベシュレンクテル・ハフツング・ウント・コンパニ), 1997.08.27

文献2 : WO 03/102285 A1(株式会社島精機製作所), 2003.12.11

文献3 : JP 5-83657 B2(株式会社島精機製作所), 1993.11.29

文献4 : US 3326017 A(Palitz A. G.), 1967.06.20

文献5 : JP 62-20476 Y2(株式会社島アイデア・センター), 1987.05.25

請求の範囲1

請求の範囲1は、文献1－5からは新規性及び進歩性を否定することはできない。

請求の範囲2

請求の範囲2に記載された発明は、文献1及び2より進歩性を有しない。

文献2には、鉛直対称面(6a)に関して面对称に配置された前後一对の針床それぞれに設けられ、編糸係止部(2a)を有するシンカープレート(2)を回動枢支部(2b)を支点として回動させる、可動シンカー装置が記載されている。

文献1には、対向するシンカ(15)それぞれに上部突起(17)及び下部突起(18)を設け、編物引出し範囲へ入り込んで新しく形成された編物を対向する下部突起によって締付け保持する、可動シンカー装置が記載されている。また、【0010】段落には、下部突起(18)は、二個の突起(18, 19)から形成されることが記載されている。【0012】段落には、上部突起が編目形成突起の機能を引受けるように形状を変更し、編目形成縁を持つようにできると示唆されている。

ここで、文献1に記載された発明における「編目形成縁」、「突起(18)」、「突起(19)」は、請求の範囲2に記載された発明における「編目形成縁」、「第1突起部」、「第2突起部」に相当する。

よって、文献1には、シンカーの編目形成縁から先端側に、第1突起部及び第2突起部の二個の突起を設ける技術が記載されている。

請求の範囲2に記載された発明は、文献2に記載されたような可動シンカーに対し、前記文献1に記載された技術を適用することによって、当業者が容易に想到できたものである。